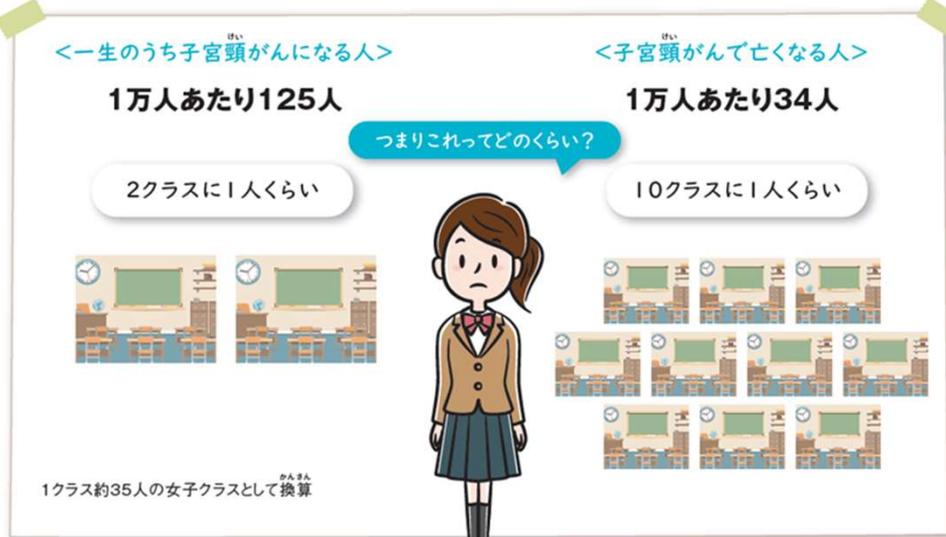


知っていますか？

HPVワクチン（子宮頸がん予防ワクチン）

子宮頸がんって？

HPV（ヒトパピローマウイルス）の感染が原因で起こるといわれているがんです。日本では毎年、約1万人の女性がかかる病気で、約3,000人が亡くなっています。患者さんは20歳代から増え始めて、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう（妊娠できなくなってしまう）人も、1年間に約1,000人います。



♡ HPVワクチン接種でHPVの感染を予防できます♡

【期間限定】 下表に該当する方はワクチン接種が**無料**です

定期接種	小学校6年生～高校1年生相当年齢の女性 (標準的な接種年齢：中学1年生)
接種期間が延長された対象者 ※令和8年3月31日で終了	平成9年4月2日～平成21年4月1日生まれで、 令和4年4月1日から令和7年3月31日までの間に 1回以上HPVワクチンを接種している女性

- ・接種は2～3回、標準的な接種期間は約6か月、最短約4か月で完了することもできます。
- ・無料の対象でない場合、接種に最大**約10万円**かかります。

※制度の詳細などは、松山市ホームページなどでお知らせします。
詳しくはこちら→



ワクチンの効果

HPVワクチンは2価、4価、9価の3種類があります。
2価、4価は、子宮頸がんを起こしやすい種類（型）であるHPV16型と18型の感染を防ぐことができ、子宮頸がんの原因の50～70%を防ぎます。
9価は、HPV16型と18型に加え、ほかの5種類のHPVの感染も防ぐため、子宮頸がんの原因の80～90%を防ぎます。



ワクチン接種後に現れる可能性のある症状

ワクチンの接種を受けた後に、接種を受けた部位の痛みや腫れ、赤みなどの症状が起こることがあります。
まれにですが、重い症状が起こることがあります。重い症状の報告頻度は、接種した1万人あたり2～5人です。

発生頻度	2 価ワクチン(サーバリックス®)	4 価ワクチン(ガーダシル®)	9 価ワクチン(シルガード®9)
50%以上	疼痛*、発赤*、腫脹*、疲労	疼痛*	疼痛*
10～50%未満	掻痒(かゆみ)、腹痛、筋痛、関節痛、頭痛など	紅斑*、腫脹*	腫脹*、紅斑*、頭痛
1～10%未満	じんましん、めまい、発熱など	頭痛、そう痒感*、発熱	浮動性めまい、悪心、下痢、そう痒感*、発熱、疲労、内出血*など
1%未満	知覚異常*、感覚鈍麻、全身の脱力	下痢、腹痛、四肢痛、筋骨格硬直、硬結*、出血*、不快感*、倦怠感など	嘔吐、腹痛、筋肉痛、関節痛、出血*、血腫*、倦怠感、硬結*など
頻度不明	四肢痛、失神、リンパ節症など	失神、嘔吐、関節痛、筋肉痛、疲労など	感覚鈍麻、失神、四肢痛など

サーバリックス®添付文書(第1版)、ガーダシル®添付文書(第3版)、シルガード®9添付文書(第1版)より改編

*接種した部位の症状

安心して接種できる体制



接種後に体調の変化や気になる症状が現れたら、接種した病院やかかりつけ医に相談してください。必要に応じて協力医療機関につないでくれます。

愛媛県では、愛媛大学医学部附属病院が、ワクチン接種後に生じた様々な症状に対応する協力医療機関となっています。

ワクチン接種のご予約

ご希望の医療機関で事前に直接予約を取りましょう。



松山市ホームページ
(医療機関一覧、
松山市外での接種手続等)

持ち物

- ・母子健康手帳（接種歴がわかるもの）
- ・本人確認書類（マイナンバーカードや健康保険証等）

※予診票は医療機関に置いています。

※母子健康手帳を紛失している方や、松山市外で接種希望の方は必ず下記問合せ先までご連絡ください。



ご相談・お問合せ先

松山市保健所 保健予防課 予防接種担当 089-911-1858

令和7年4月作成